

平成 18 年度国際大学交流セミナー

「オリンピック・博覧会の開催と都市の現代化、国際化について」を開催

(共催：(財)みずほ国際交流奨学財団、(独)日本学生支援機構)

(参加大学：北京師範大学、華東師範大学、横浜国立大学)

本学では、2月14日から10日間にわたり、協定校である北京師範大学（北京市）及び華東師範大学（上海市）から学生、教員24名を招き、「オリンピック・博覧会の開催と都市の現代化、国際化」をテーマに国際大学交流セミナー（みずほ国際交流奨学財団、(独)日本学生支援機構共催）を開催しました。

本セミナーでは、公共交通を使って移動しながら、横浜、川崎、東京の実際の姿をフィールドに、世界に開かれた都市のあり方を共に考え、2008年の北京オリンピック、2010年の上海世界博など今後のビッグ・イベントへの建設的・積極的な視点を提供することにより、大学の教育・研究活動を通じた日中の相互理解促進に寄与することを目的にさまざまな事業が展開されました。

また、これに先立ち、昨年9月には2週間にわたり学生の中国研修旅行を、12月には学生・教職員の代表団を両大学に派遣する等、事前交流を踏まえた継続的、発展的な活動であることが大きな特徴となっています。

以下に、本セミナーで実施された事業の様子を紹介します。

【2月14日（水）】 来日

あいにくの雨の中、中部国際空港に降り立った一行は、村田教授（教育人間科学部）の出迎えを受け、東名高速道をバスで移動し、「川崎市青少年の」家に落ち着きました。途中、サービスエリアで休憩し、日本に来て初めての買い物を体験しました。



1) 何を買って食べたのかな？

【2月15日（木）】 川崎市内視察



セミナー最初の活動は川崎市橋処理センター（ゴミ処理工場）やりサイクルコミュニティセンターを視察し、大都市におけるゴミ処理の現状や、廃棄物の再利用、再生利用等によるゴミの減量化などについて学びました。

昼食をとった川崎市民プラザでは、日本

2) ゴミの分別収集に感心！



3) 廃品で作った人形が印象に残ったようでした

庭園や茶室等があり、ちょっぴり日本の文化にも触れました。

その後、川崎市内にある村田教授の自宅を訪問し、先生が集めた資料や写真、映像を見せてもらいながら、川崎市の歴史について話を聞きました。おひな様も飾ってあって、みんな大喜び。セミナー終了後のアンケート調査では、先生の家を訪れた事が印象に残ったという感想も多数ありました。